

令和2年1月 定例記者会見（報告）

1 日 時 令和2年1月27日（月）午後1時～午後1時35分

2 会 場 庁議室

3 出席者

<報道機関>朝日新聞、山形新聞、米澤新聞社、読売新聞、毎日新聞、河北新報、
Y T S、置賜日報社

<市> 市長、秘書広報課長、担当者

4 記者倶楽部からの質問事項

- (1) 白布温泉街に2件の空き宿泊施設、天元台にも1施設があり、目立っています。観光振興の妨げになっているようですが、対応について考えを教えてください。
- (2) その他

5 内 容

○秘書広報課長

それでは、定刻となりましたので、令和2年1月の定例記者会見を始めさせていただきます。初めに、市長から質問に答えさせていただきます。

○市長

よろしく申し上げます。事前に頂戴しております質問は「白布温泉街に2件の空き宿泊施設、天元台にも1施設があり、目立っています。観光振興の妨げになっているようですが、対応について考えを教えてください」というものでした。

元「かんぼの宿」は昭和44年に建てられて築50年になっております。この建物につきましては、白布温泉に行く手前にありますが、平成27年2月に車庫の雪庇が県道に落雪しそうだとの通報があったため、当時の所有者に管理について指導を行ったことがあります。現況については、外壁で囲んであり、周囲に及ぼす影響はないと思っております。

二つは元「ホテル溪山」ですが、この建物は昭和40年に建てられ、築54年になっております。現況は、一部、屋根、軒、外壁、窓ガラス等が損壊しておりますが、周囲の建物及び道路まで距離があるため、危険を及ぼす恐れは少ないと思っております。この空き施設については、問題があるという通報もありませんでしたので、指導を行ったことはありません。

また、天元台にあります元「山形大学工学部セミナーハウス」についてですが、これは昭和52年に建てられ、築42年の建築物であります。この建物は松川堰組合の

管理道路に隣接しており、外壁等の損壊による部材の飛散もあるようですので、令和元年12月に、県外空き施設所有者への注意喚起文書を郵送しております。

以上、三つについて米沢市で把握しておりますが、いずれについても所有者が存在し、問題があれば市から指導喚起を行っているというのが現状であります。空き家がありますから、観光の妨げになるということもあると思いますが、特段、それ以上のことは、行政の中では取り組めないというのが現状であります。質問事項については以上です。

○秘書広報課長

質問に対する市長からの回答は以上となります。ここからは幹事社を中心に質疑に移ります。よろしくお願いいたします。

○幹事社

白布温泉の観光客の維持がどうも思わしくないという話もあって、空き家があるということで、観光客の受けもよくないという話もありました。行政で対応策は考えていますか。

○市長

これは全国的に話題になっている問題で、もっと景観のひどい所もあると思っております。ただ、今申し上げましたように行政としては手を出すことはできませんが、再利用しなかったら、解体するなりして欲しいという思いはあります。管理上の問題なども出てきますと、どこまで行政としてお願いするのは、なかなか出来難いところもありますが、本来であれば利活用していただければありがたいなと思っているというのが現状です。

○幹事社

分かりました。皆さんの方から、何か質問などありますでしょうか。

○記者

元「かんぼの宿」は玄関口ですね。利活用ということに関して、所有者の方はこれがしたいということは言っているのでしょうか。それとも分からないのでしょうか。

○市長

今のところ利活用の予定はないということでした。

○記者

三つともですか。

○市長

そうです。いろいろな施設を見ますと、余程の修繕をしないと利活用できなくなっているという状況のようです。一番ありがたいのは、利活用していただくことですが、やめた原因というものもあると思いますので、今のところ利活用はないということでした。

○記者

市としては景観上もあまり思わしくないなと思いつつも、危険とかもあまりないので、行政としては、所有者の人たちはちゃんと考えて欲しいと思いつつも、行政は

今手を出せないというのが現況ということですね。

○市長

はい。所有者には指導や注意喚起の文書も送っておりますが、一番は利活用をしていただく。そうでなければ、年々損壊もひどくなっていきますので、解体するなりの対応をしていただきたいと思います。ただ、損壊はあるものの解体してくださいというところまではいっていないようです。環境問題や景観という観点からしても良くはないなという思いはあるにしても、問題が起きたという訳ではありませんので、現在、そこまでは申し上げにくいと思っております。

○記者

白布温泉は「中屋」が火事になって、大変な歴史をたどってきた訳ですが、「中屋」も含めて、三つの旅館が白布温泉の顔というか、そのようにして今に至ります。元「かんぼの宿」や他の景観的なものを嘆いているのは、市だけではなくて地元の方もそうだと思います。例えば、白布温泉組合当たりから「どうにかしてくれ」など、お願いの文書は過去に送られていないのでしょうか。

○市長

私個人としては、直接お聞きしたことはありません。ただ、今三つの旅館が経営されている訳ですが、担当同士の会話ではあるのかもしれませんが。しかし、米沢市へという形では、まだ来ておりません。当然そのように思っていることは間違いありませんので、今後どのように利活用できるのかということについても、ただ手をこまねいているだけではなく、良い話があれば対応をしていかなければならないと思っております。

○幹事社

実は小野川でも二箇所出ております。そうすると、米沢の名だたる温泉を訪れる観光客も少なくなっていくのではないかという危惧も持っております。

○市長

基本的に、これは米沢だけでなく全国的な課題となっているということは、私も承知しております。空き旅館が出たから行政がどこまでその段階でできるのかということ、なかなか難しいものがあります。特にお湯の権利などもありますので、そこをどうするかということが課題となります。ある旅館街では、今にも倒壊しそうな建物で行政が一定程度介入したという話は聞いておりますけれども、今の状況でどこまでできるかということについては、米沢ではそのような状況には至っていないというのが現状です。

ただ、まだはっきり申し上げられませんが、天元台のロープウェイの事故等もあり、白布温泉の利用客も減っているということは現状としてあったと思っております。今後、新年度予算が発表できる段階になれば、白布・天元台活性化の事業も取り組まないといけないだろうと思っておりますが、予算内示があるまでは申し上げられません。しかし、一番心配されているように、観光客の減につながるというのがお話しのようなですから、新たな魅力づくりには取り組んでいかなければならないと考えております。

○記者

新年度予算では、何か活性化につながる事業に予算を充てるという方針ですか。

○市長

はい。国の補助との関わりもありまして、まだそこが採択ということはないにしても、実際、地元の皆さんと話し合いをしながら、今後、活性化に向けて魅力ある温泉地をどのように作れるかということは、我々も含めて、地域の方々と話し合いを進めているというのが現状です。

○幹事社

分かりました。その他で質問のある方いらっしゃいますでしょうか。

○記者

屋内遊戯施設については、新年度予算で付くのでしょうか。

○市長

市長査定も終わっておりますので、令和2年新年度予算については、骨子は出てきました。しかし、まだ議会には正式に発表しておりませんが、極力対応していきたいと考えております。このくらいでご勘弁いただきたいと思っております。

○記者

では、そのうち出てくる訳ですね。

○市長

そうですね。

○記者

雪が降らないのですが、市長の受け止めがあれば教えてください。

○市長

様々な会合が続いておりますけれども、そこでの話題はこの話ばかりです。高齢化が進んでおり、また、先日も障がいのある皆さんとの新年会でも話題になりましたが、生活する分には良いということで、我々も同じ思いです。しかし、やはり米沢の冬というのは、雪で冬場の経済が回っているという現状もあり、その中で生活習慣が成り立っております。このような状況というのは今まで例がなかったというのが、高齢者の方の話でも出てきております。

いろいろな業界からも「モノが売れない」、「食べ物が出ない」など困ったという話を聞きます。当然、除雪車も動きませんので、ガソリンスタンドも大変のようです。何よりも大変なのは、委託している業者の方です。中には、リースで対応しているという事業所もあり、それが動いていないということになると、非常に困ったなというある意味悲鳴にも近い声がいろいろな方面から出ております。

また、もう一つは春夏の水不足にどう影響を及ぼすかということについてです。二年前も水不足でしたし、去年は台風19号による大雨という別の面での問題もありましたが、毎年の気候変動が繰り返されているということで、このことをどう捉えていくかということとは自治体としても非常に悩ましく、どう対応していくのかというのが率直な思いです。

○記者

2週間後に雪灯籠まつりも開催されますが、どのようなお気持ちでしょうか。

○市長

上杉雪灯籠まつりについては、「四季のまつり実行委員会」内で担当しているのが、商工会議所になっております。40基程度の灯籠を作るということは、皆さんもご承知だと思いますが、雪を持って来るのが白布のスカイバレー周辺からということにしているようです。昨日、職員が見てきたところ、積雪が50cm程度しかなく、雪の質も悪いということでしたので、果たしてこのような雪で灯籠が作れるのかと心配しているのが現状です。

○記者

建設会社取材に行ったのですが、例年このシーズンだと、2、30回は除雪に出ているとのことで、三千万円ほどの売り上げを見込んでいたけれども、今年は1回の出勤だそうです。これはもはや災害なのではないかという話も聞いております。市として、予算を別に組んで補助を行うということはないのでしょうか。

○市長

降雪がなく、出勤がないことに対する補助はない訳であります。ただ、当然、このような状況ですから、待機料というのは発生してくると思っております。見定めるのが難しい部分はあるにしても、一部、業者の要請が来るのかもしれませんが、リースで行っているところもあるということだと、可能性として、待機料の前払いということも出てくるのかなと思っております。補助ではなく、そういったことも想定しながら対応していかなければならないと思っております。

○記者

待機料金は自治体によって違うのでしょうか。ある程度、決まっているものなのでしょうか。

○市長

就任してから、周辺の待機料を調べておりましたが、一律ということではなく、その地域によって違っているようです。

○記者

自治体ごとに決めるのですね。いわゆる建設業界から指示される訳ではなく。

○市長

そうです。自治体ごとといった方が良いのではないのでしょうか。

○記者

雪灯籠まつりについて、過去にもスカイバレーから雪を持って来ておりますが、最悪の場合、中止ということも関係者の中では視野に入っているのでしょうか。それともそれはしないのでしょうか。

○市長

私がお聞きしているところでは、中止はしないということでした。最低数の雪灯籠でやっていくとのことでした。

○記者

関連の質問ですが、関係者の意向は意向として、昨日のような暖かい天気になると、灯籠を作って本当に成り立つのかという不安の方が、現実味を帯びてきていると思います。市長ご自身のお考えとして、中途半端なものをやるのだったら、今年は割り切って止めてしまおうというご決断はないのでしょうか。

○市長

「四季のまつり実行委員会」の委員長は市長ですが、雪灯籠まつりの担当は商工会議所です。ですから、やるかやらないかの判断は雪灯籠まつりの実行委員会の方ですべきだと思っておりますので、市長がどうこうという話ではないなと思います。それも違うのではないかということもあるかもしれませんが、今日の状況を踏まえて、少しの雪でもやるというように判断をしておりますので、私はそれを見守りたいと思っております。

○記者

少し寂しいですね。

○市長

そうですね。地面が土だったらどうなのかというイメージは持っております。それでも、旅館を予約しているなどの兼ね合いもございますので、このような状況では、雪は少ないですが今年は勘弁してくださいとしか言いようがないですね。

○記者

大沼の件についてですが、市にはどのような連絡が入っているのでしょうか。

○市長

いえ、市には一切連絡は入っておりません。

○記者

ないのでですね。

○市長

26日に自己破産申請をして、今日から店は開けないということですよね。そのようなやり方で米沢市の方に丁寧に言うてくるものではないと思います。山形本店の問題ですが、私はあまりにも地元の方々に失礼なやり方ではないかなと思っております。

○記者

それでは、市の対応というのもなかなかやりようがないということですか。

○市長

米沢の方は閉鎖したということで、サテライト店で当面、営業いただいていた訳ですが、経営陣からすれば、米沢は閉店するというので、恰好は付けたのだと思っっているのかどうか、私も分かりません。

今回の本店のやり方を見ても少しひどすぎるのではないかなと思っております。米沢の場合は、何日間か閉店セールがありましたが、今回の場合は全くそういうものがなく、破産手続きをしました、そして今日からは店を閉めますというようなやり方ですから、やり方がひどいのではないかという思いはあります。

○記者

サテライト店について、米沢の商業への影響はそれほど大きくはないという感じですか。

○市長

今のサテライト店の現状を見ましても、そんなに影響はないと私は思っております。

○記者

前から課題になっている、大沼の空き店舗をどのように利用するかということについて問題も出てくると思うのですが。

○市長

そうですね。前から本店も含めて米沢店も別の方が買い求めたという話も聞いておりました、どのようなことに今後なっていくのかと思っておりました。今日の新聞報道で初めて知った訳ですが、今後、所有者がどうなっていくのか、空き地周辺のエリアの対応をどのように進めていくのかということも、行政のみならず商工会議所と「官民一体となって考えていかなければならない」と話をさせていただいたところがあります。しかし、今日の発表前の話でしたので、具体的にどうするかということは分かりません。

所有者がどこに移ったのかも分からないという話題になったことは聞いていたのですが、それも実際どうなのかということも確認しながら、相手方がどう対応されるのかということも、我々も関心を持って考えていかなければならないことなのだろうと思います。

○記者

そうすると、新しい所有者が挨拶へ来られたということもないのですね。

○市長

一切ありません。

○記者

今のお話しでいくと、市長は今、大沼米沢サテライト店は誰の所有者になっているというご認識でしょうか。

○市長

分かりません。コンサルタント会社が再開発すると言って実施したことが、特に本店の方でいろいろな問題があって、地元の方が買い戻したということまでは承知しておりますが、その後、売却したということも聞いたので、現在、誰の所有者になっているのか分かりません。

○記者

登記簿の確認などはまだされていないのですか。

○市長

再開発などあれば、登記簿も確認しながらどうあるべきか考えられるのですが、まだそこまですべて至っていませんので、登記簿の確認などはしていません。

○記者

別件についてですが、先週の市政協議会で令和2年度の「米沢市スポーツ推進計画後期改定計画」のパブリックコメントの実施が市議からの指摘で、延期になりました。その理由について、市長はどのような説明を受けましたか。

○市長

いえ。私は聞いておりません。

○記者

あまりにも担当課の答弁が問題になっていたということで、私は聞いておりましたが、市長に話は来ていないということですね。

○市長

どういう問題があってそうなったのか、まだ私の方には来ておりません。

○記者

市のガバナンスという点でどうなのかと個人的に思いましたので、確認の上でご対応いただきたいと思います。

○市長

どのような内容だったのか、報告があるのかも含めて対応させていただきます。

○幹事社

他に質問などある方いらっしゃいますでしょうか。

○秘書広報課長

ないようですので、令和2年1月の定例記者会見を終了いたします。